

特54

特54

9212

56930

香通學表解叢書

增訂西洋史

六盟館編輯所編纂

合資  
會社

六

盟

館

明治  
39 11 26  
丙午

## 序言

- 一、本書は中學校、師範學校の生徒諸君及び小學校教員檢定受験者諸氏の爲めに編者が多年の經驗に徴し確實なる材料を精選して之を表式的に解釋し秩然序を逐ひ統を立て以て明確に理解し容易に記憶せしめんが爲めに編纂したるものなり。
- 一、諸所に餘白を存し又卷末に白紙を附加したるは諸氏が教師の講義等の書入をなし研究に資せられん爲めの便利を考へたるものなり。
- 一、諸氏は本書を備忘録とし参考書として常に携帯し如上の目的を達せられんことを望む。

明治三十九年十一月

編者識

改版につきて

錯雜せる事項を分類し系統を整齊して記憶の聯絡に秩序あらしめ且つ容易ならしめんことを期したる普通學表解叢書は多大なる好評を博して世上に幾多の類似的著作物の發刊を見るに至れり此擬似的摸倣的著作物の多々益大なるによりて讀書社會が著者の創見に對して最高最多なる價値を附與したるを認識すると同時に著者は益々重大なる責任を負ふに至れり茲に増補改版に際し一層の奮勵を以て表解叢書の實力發揮に盡瘁し以て讀者諸君が與へられたる好意に報いんことを期す

増訂西洋史

目次

第一篇 上古史

- 一 東方諸國の興亡……………一
- 二 エジプト……………二
- 三 ヘブライ……………三
- 四 フェニキア……………四
- 五 アッシリア……………四
- 六 四國の對立……………五
- 七 ヘルシア……………六
- 八 ギリシア……………七

目次

- 九 スパルタ……………七
- 一〇 アテネ……………八
- 一一 ギリシアとヘルシアとの戰 (ヘルシア戰爭)……………九
- 一二 ペリクレス時代……………一〇
- 一三 ハロホネソスの戰……………一一
- 一四 スパルタ、テーベ、マケドニアの爭鬪……………一二
- 一五 多れくさんどる大王……………一三
- 一六 ギリシアの文物……………一五
- 一七 ローマの勃興……………一六
- 一八 ローマのイタリア統一……………一七

目次

一九 ヴェニエニ戦役……………一八  
 二〇 ローマの外圍征服……………一九  
 二一 ローマ共和政の腐敗……………二〇  
 二二 びーざるの専業……………二二  
 二三 第二、三頭政治……………二三  
 二四 ローマの帝政……………二四  
 二五 終りすと……………二五  
 二六 ローマの文物……………二五

**第二篇 中古史**

一 蠻族の移轉……………二六  
 二 東ローマとバルシア……………二八  
 三 サラケン帝國……………二九

四 正教會の分裂……………三〇  
 五 フランク王國……………三一  
 六 ノルマン……………三二  
 七 神聖ローマ皇帝と法廷……………三四  
 八 中古西ヨーロッパの社會……………三七  
 九 十字軍……………四〇  
 一〇 イギリスとフランス……………四二  
 一一 東ヨーロッパ諸國……………四三  
 一二 モンゴルの西征……………四四  
 一三 オスマンリトルコ……………四五  
 一四 發明……………四六  
 一五 學術……………四六

目次

一六 地理上の發明……………四八  
 一七 四ヨーロッパの形勢……………四九  
 一八 宗教改革論……………五一

**第三篇 近古史**

一 イスパニア、ホルトガルの殖民……………五二  
 二 宗教改革の反動……………五三  
 三 オランダの獨立……………五四  
 四 イギリスの宗教紛議……………五五  
 五 えりさべた女王……………五六  
 六 フランス政教の争……………五七  
 七 三十年戦役……………六〇

八 フランスの王權伸長……………六一  
 九 るいす十四世……………六三  
 一〇 イギリスの第一革命……………六五  
 一一 イギリス名譽革命……………六七  
 一二 四ヨーロッパ諸國の殖民與貿易……………六七  
 一三 東北ヨーロッパの形勢……………六八  
 一四 ロシアの勃興……………六九  
 一五 ポーランド王位相續問題……………七〇  
 一六 プロシアの強大……………七一  
 一七 オーストリア相續の役……………七二  
 一八 七年戦役……………七三

目次

一九 イギリスとフランスの殖民地競争……………七五

二〇 ホーランド第一分割……………七六

二一 あたりな二世の雄圖……………七六

二二 アメリカ殖民地の獨立……………七七

二三 第十八世紀の文明思潮……………七八

第四篇 近世史

一 フランス革命……………八〇

二 ーランドの分割……………八二

三 なほれおん……………八四

四 ワイーン會議……………八七

五 なほれおんの再興略……………八七

六 イギリスの殖民地擴張……………八八

七 神聖同盟……………八九

八 諸國の獨立運動……………九〇

九 七月革命……………九二

一〇 ヘルギーの獨立……………九二

一一 ホーランドの叛亂……………九三

一二 ビレネー半島の政争……………九三

一三 スウイスの改革……………九四

一四 イギリスの政黨政治……………九四

一五 東方問題……………九五

一六 二月革命とその影響……………九六

一七 なほれおん三世の即位……………九七

目次

一八 クリム戰役……………九八

一九 ロシア、イギリス、フランスのアジア經營……………九九

二〇 イタリヤの統一……………一〇〇

二一 南北戦争……………一〇二

二二 メキシコ問題……………一〇三

二三 ドイツ統一、ロシアとオーストリアの役……………一〇五

二四 プロシアとフランスとの戰役……………一〇七

二五 トルコとロシアとの戰役……………一〇九

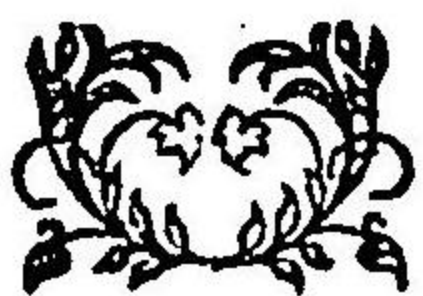
二六 西洋諸國のアフリカ經營……………一一〇

目次終

二七 西洋諸國のアジア太平洋經營……………一一一

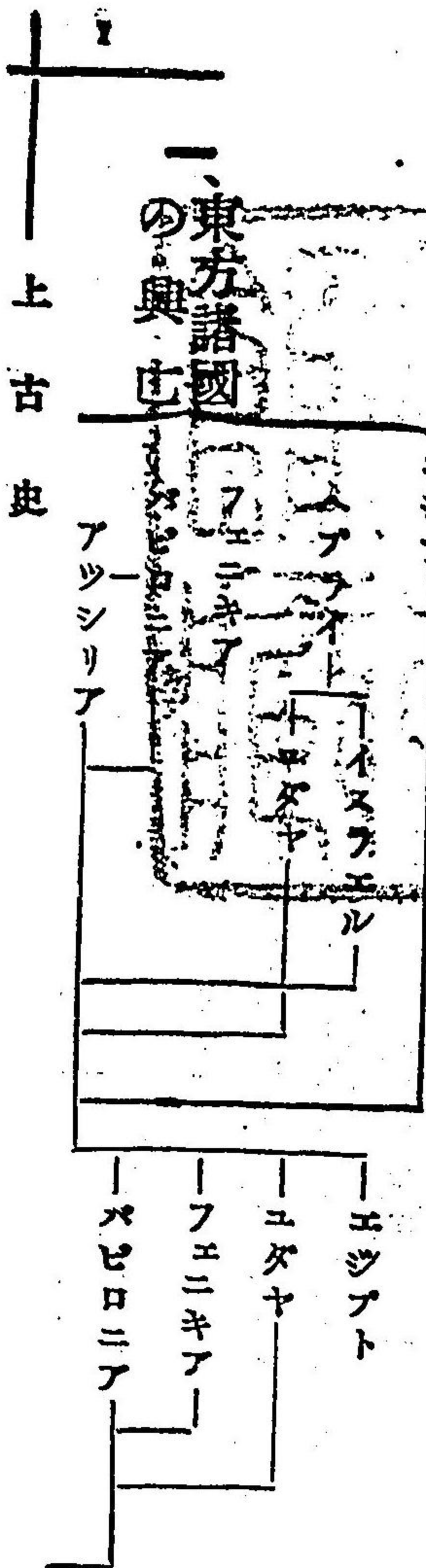
二八 十九世紀文明……………一一三

二九 日本の位置……………一一五



增訂西洋史

第一篇 上古史



六盟館編輯所編纂

メサア

ヘルシア

リサア

マケドニア

1. 建 國

エジプトの早く開けたるはニール河の天恵による。  
西紀前三〇〇〇年頃めぬすの創建といひ傳ふ。

2. 制 度

一、社会：族制制度：王、教師、武士、平民の四級となる。  
二、政治：君主政治：教師政務に關與す。

3. 美 術

一、建築：安大と堅牢とを特色とす：金字塔、方尖塔、獅身人面像、  
旋堂。  
二、繪畫彫刻：幾何學的にして變化に乏し。

4. 學 問

一、數學、天文：進歩す一年の日時を算定せり。  
二、醫學：死體を永遠に保存す。

二、エジプト

三、ヘブライ

6. 沿 革

(三) 文字：象形文字をバビロスに書す。  
一、西紀前一六〇〇年頃隆盛を極む。  
二、第七世紀の中頃アツシリアに滅ぼさる。

5. 宗 教

一、自然崇拜：輪廻の説を信ず、太陽を主神とす。  
二、初め神意政體後に王政。

4. 沿 革

一、なびて王の時國勢最も隆盛。  
二、西紀前九五三年王そろもんの殺後イスラエルとユダヤとに分裂す

3. 宗 教

一、多數の市聯合し各市王を戴く、シドン、チル。  
二、殖民なつとも殖民は自由に政治を營む、カルタゴ一等。

2. 制 度

一、多數の市聯合し各市王を戴く、シドン、チル。  
二、殖民なつとも殖民は自由に政治を營む、カルタゴ一等。

四、フェニキア

3. 通商

本國は硝子、染料を輸出し、エジプト等の地中海沿岸并に大西洋沿岸に通商す。

4. 文字…音標文字を發明す、後世西洋文字の根元なり。

5. 宗教…天體崇拜にして太陽を主神とす。

6. 沿革…第十世紀頃榮えしが第九世紀頃アッシリアに併吞せらる。

1. 建國…西紀前一三〇〇年頃起る。

2. 制度…王あり征服したる領土の王を總へ貢獻を受け兵權を握る。

3. 宗教…太陽及び軍神を主神とする多神教なり軍神は全領土に祭らしむ。

五、アッシリア

4. 沿革

一、隆盛…西紀前第七世紀前後の交さるころ、あつするはにばる等の王出て世界統一を行へり。

二、滅亡…西紀前六〇六年メサア王さやくざれず、メビロンの鎮將はほららるるよに攻められて首都ニメア陥る。

三、滅亡…西紀前六〇六年メサア王さやくざれず、メビロンの鎮將はほららるるよに攻められて首都ニメア陥る。

1. メチア…アッシリアの北に國しヘルシアに滅ぼさる。

2. リチア…小アツアに國しヘルシアに滅ぼさる。

3. エジプト…さめさくすの時稍盛なりヘルシアに滅ぼさる。

六、四國立の對立

一、沿革…西紀前二五〇〇年頃起り第七世紀にアッシリアに滅ぼさる

二、制度…君主獨裁。

三、宗教…多神教にして太陽を主神とす。

四、學問…天文学數學大に發達して天體の觀測曆法につとむ。度量衡を發明し、物を量ることを研む。文字は楔形文字なり。

五、美術…一、建築…煉瓦の如きもの又は石等にて造り規模極めて宏大なり。二、工藝…精巧(メビロンの刺繡陶器冶金)。



1. 建國...メサアの知事さろす西紀前五五八年メサアを滅ぼして國を建つ。  
 2. 宗教...さろすとの二元神教即ち祓教。ある地方には拜火教あり。

七、ペルシア

3. 沿革

一、盛時

- イ、さろす王
  - 1 メサアを滅ぼし。
  - 2 リダア新ペロニアを滅ぼす。
- ロ、かんびせす王...エジプトを征服す。

ハ、王たりり

- 1 制度 王權を改造し郡縣政治を施し直税を徵收す。
- 2 功業 一、軍道溝渠を通じ驛傳の法を行ふ。  
二、法貨を鑄造す。

二、衰亡

- イ、くせるくせす以後ギリシアと戦ひて敗れ内亂起り衰ふ。
- ロ、マケドニア王あれくさんどる大王の爲めに西紀前三三〇年に滅ぼさる。

八、ギリシア

1. 早起の因...土地の位置山海の情況は文明を起すに適す。

2. 制度

各邦皆王あり貴族政に參す、後ち貴族政治、僭主政治、民主政治行はる。

3. 宗教

- 一、多神教にして神は人の高尙なるものなりせり(天神)を主神とす。
- 二、オリンピアに國人集會して西紀前七七六年後四年に一回づゝせりすの大祭を行ふ。

4. 強邦

アテネ、スパルタの二邦最も強し。

1. 國人性質

スパルタ人は粗朴剛毅、尙武的協同的の氣あり。リこるとすの憲法によりて之を養成す。

2. 制度

- 一、政治 上に二人の王あり元老院政務を輔け民會に於て大事を議決す。
- 二、社會 市民平民奴隸の三級あり相犯すべからず、市民のみ參政權あり。

九、スパルタ

### 10. アテネ

- 3. 教育法
  - 政府は男女の結婚に干渉す 強壯なる嬰兒のみを哺育す。
  - 寒衣素食兵營に住せしむ 尙武的嚴格なる訓練を施す。
  - アテネ人は學藝美術を尙び通商航海をつとめ民主主義を愛するの民なり。
- 1. 國人の性質
  - 一、はじめ王政なり。
  - 二、貴族政治を行ふ。
  - 三、（そのころ西紀前五九四年憲法を制定し財力によりて人民の權利に等差を立つ豫審會）。
  - 四、後ち僭主政治を置く（ピシストラトス）。
  - 五、西紀前五一〇年くりすてぬす民主政治を行ふ（オストラシズム）。
- 2. 制度及び沿革
  - 一、アテネ人ひびあすヘルシアに逃れて王たりおすの心を動かす。
  - 二、ギリシア殖民地の叛亂にアテネ之を援く。
- 1. 原因

### ギリシアとペルシアの戦争

### 2. 戦況

- 一、第一次
  - 王たりおすの陸軍はトラキア土兵に敗れ海軍は風に遭ひて船覆る（四九二年）。
  - 王たりおすの派遣軍アツチカのマラトン原野に於てアテネの將みるちあてすに敗らる（四九〇年）。
- 二、第二次
  - イ、テルモピレの戦
    - 王くせるくせすの大軍テルモピレに於てスパルタ王紀おはすの手兵を破る。
    - アテネの將てあすとくれす詭計を以てヘルシア王の海軍をサラミスに破る、王國に逃る（四八〇年）。
  - ロ、サラミスの戦
    - スパルタの將ぼーさほあすヘルシアの將あるとはあすの陸軍をプラテエーに破る。
- 三、第三次
  - ハ、プラテエーの戦

3. 結果

- 一、ヘルシアは戦敗れ且つ内亂に苦しむ。
- 二、小アジアにあるギリシア殖民地獨立す。
- 三、ヘルシア退縮。

1. べりくの性格

哲學者政治家將軍辯舌家として有名なり。  
思想高潔深く民主主義を愛す。  
堅く質素を守り文學美術を獎勵するに吝ならず。

三、べりく代

2. べりくの功業

- 一、土木を興してアテネを修飾す。
- 二、文學美術を獎勵してギリシア文化に光彩を放たしむ。
- 三、商工業を振作す。
- 四、制度を改めて純然たる民主政治を行ふ(民會、アテネ公民)。
- 五、テロス同盟を利用して海賊ヘルシア等の防禦警備に當らしむ。

三、ペロポネソス戦争

1. 原因

- 一、アテネ、スパルタ兩國民性格思想の反背。
- 二、アテネ隆運に對する他邦の嫉妬。
- 三、コリントとその殖民地コルキラとの紛争。

2. 戦況

- 一、第一次  
勝敗決せず 悪逆流行し べりく倒す。
- 二、第二次  
イ、アテネの將あるさびあてず、シチリアのシラクザ(四一五年)を攻め陥す。  
ロ、あるさびあてず、スパルタに説きヘルシアと同盟せしむ。  
ハ、アテネ都城陥る。

3. 結果

- 一、テロス同盟の解散 スパルタの雄勢。
- 二、アテネ民主政治衰亡。

一四、スパルタ、マケドニアの争覇

- 1. スパルタ
  - 一、アヘルシヤに侵入しむ。
  - 二、平和條約
    - イ、小アジアの殖民地をヘルシヤに與ふ。
    - ロ、ギリシヤ列邦間の同盟を禁ず。
- 2. テーベ
  - 一、興起
    - イ、えびみのんがす、ペろびだす等の名士出てスパルタ兵を追ひて民主政治を確立し終にポイオチア諸市の盟主となる。
    - ロ、レウクトラの戦にスパルタ軍を破る。
  - 二、衰退
    - イ、ふりりほ二世兵制を改めギリシヤ文化を輸入す。
    - ロ、ギリシヤ同盟をケーロニアに破りコリント會の盟主となる。
- 3. マケドニアの興起

西紀前三九六年スパルタ軍ヘルシヤに侵入す。

一五、あるさんどる大王

- 1. 大王の性格
  - 一、幼時よりありすとて礼すに學び智勇絶倫なり。
  - 二、即位の後ギリシヤ列邦を征服せり。
- 2. 大王の遠征
  - 一、原因
    - イ、ヘルシヤを討ちて先年ヘルシヤ戦争の復讐せんとする。
    - ロ、ギリシヤの志士ヘルシヤに走れるものを平げんとす。
  - 二、戦況
    - イ、三三四年征途に上る。
    - ロ、小アジア、フェニキア、バレスチナ、エジプトを服す(ガラニコス、イッソス)。
    - ハ、ガウカメラに於てヘルシヤ軍を崩潰す。
    - ニ、三三一年大王全くヘルシヤを滅ぼす。
    - ホ、中央アジアを服しインド北部を略してバビロンに凱旋す。

3. 大王の企圖

- 一、ペルシア王の相繼者にして大領土を統治せんとす。
- 二、人種言語風俗宗教を混一し利益を普及し一新文明國を起さんとす。
- 三、この企圖は大王の死とともに充分行はれず。

4. 大王國大分裂

- 一、シリア アシアの大領土 パルチア、ビクトリア後ちに獨立す。
- 二、エジプト ぶとぬめりす領にてアレクサンドリアを都とし國榮ゆ。
- 三、其他 マケドニア、ポントス等。

1. 特色

- 一、生氣あり。
- 二、調和と権衡とを失はざるにあり。
- 三、一新機軸を出すにあり。
- 四、美を以て目的とするにあり。

一六、ギリシアの文物

2. 文化を催ふし源因

- 一、山水の秀麗。
- 二、祭祀に於ける競技會。
- 三、大理石等原料の供給。

3. 文學

- 一、詩…〔叙事詩〕〔ほめ—うた〕。
- 二、戯曲〔悲曲〕〔そすきうた〕、〔喜曲〕〔よろこぶうた〕。
- 三、散文…くせのあはれ、てんがみうた。

4. 科學

- 一、歴史…へろどとす、ひろ多し。
- 二、科學…てんくりとす、ゆりすとす。
- 三、哲學…そんりてす、ゆりすとす、ゆりすとす(論理)。

5. 美術

- 一、建築…イクサスのパーテノン。
- 二、彫刻…ぶぢあすのせりす。

一七、ローマの勃興

1. 建國

西紀前七五三年をむるすがエトルスキ、ラチニ、サピニの村を合して建てしといふ。

2. 制度

一、王政時代

イ、社會…人民は貴族平民の二階級より成り相婚を禁ず。

ロ、政治

元老院 貴族より成る。  
社會 貴族より成る。  
隊會 貴族と平民とより成る。

二、共和時代

イ、社會

四〇〇年頃政權平等となり三〇〇年貧富また平等となる。

ロ、政治

統領二人。  
元老院、社會、隊會故の如し。  
護民官、平民二人。  
族會、平民有力なり。

一八、ローマのイタリア統一

1. 中部征服

ローマ人はガリアの侵入を禦ぎ二九〇年迄に中部イタリアを平定せり。

2. 南部の征服

一、原因…タレンツム、ローマと戦を開き援をエピロスに乞ふ。

イ、ローマ熱心エピロスと戦ふ。

ロ、シラクサ援をエピロスに乞ふ王ひろす救済に赴く。

ハ、ローマ、カルタゴー聯合してひろすを破る。

三、結果…前二七二年タレンツム陥り南部イタリア降る。

3. 北部征服…ガリアを征し北部イタリアを降す。

一、原因

カンパニア傭兵がシラクサに攻撃せられ援をローマとカルタゴーに求む兩者救援上衝突を起す。

1. 第一役

二、戦況

イ、ローマ陸に勝ち海に敗る。

ロ、最後にカルタゴー、ローマの軍艦に働いて造船しカルタゴーを破る。

一、九、ポエニ戦役

2. 第二役

三、結果…ローマは償金とシチリア島を得。

一、原因

西紀前二一八年カルタゴの名將はんにぼる、イスパニアよりイタリアに侵入し恢復を圖る。

二、戦況

イ、はんにぼる、イタリアに大勝を得。  
ロ、然るに事豫期に反し外國の應援至らず、  
ハ、ローマの名將スキピオカルタゴを襲ふ、はんにぼる國に歸りて二〇三年サマにスキピオと戦ひ大敗す。

三、結果

イ、カルタゴ本國以外の地をローマに割譲す。  
ロ、ローマの承諾なくして開戦媾和するを得ず。

一、原因

ヌミシア王カルタゴを侵す、カルタゴ之を禦ぐ、ロ、マ以て條約違反とし軍艦武器の没收を迫る。

二、結果

カルタゴ敗れ全く亡ぼさる(一四六年)。

3. 第三役

二〇、

ローマの外國征服

1. マケドニア…(一四六年)。

2. シリアの一部…(一九〇年)。

3. カルタゴ…(一四六年)。

4. ペルガモン…(一三三年)。

1. 外征の結果

一、良好の方  
ロ、富の増加。

ハ、東方文化の輸入。

イ、奢侈の増長。

二、悪しき方  
ロ、道德の腐敗。

ハ、元老院の跋扈、貧富の懸隔。

2. ぶらっくすの救済

一、田制を制定し門閥家の田地所有の最大限を定む。  
二、富者に課税を課せられて救済成らず。

ローマの共和政の腐敗

3. 黨争

一、まりうす

イ、平民出身者なり。

ロ、スキシアを征討す。

ハ、ゲルマニーの侵入を禦ぐ。

ニ、ポントス王みとらだてすの侵入に際し征行を望みて果さず多くするらの黨を殺す。

二、するら

イ、ポントス王みとらだてす、アツア縣を侵しギリシアに入る。するら、まりうすを排斥して遠征に赴き償金と軍艦を徴して歸る。  
まりうす、するらの東征中するらの黨を殺す、するら歸りて讐を復す。

4. みとらだてすの亂

一、ポントス王みとらだてすアツア縣を侵しギリシアに入る。ローマの將するらに破られ償金を出し軍艦を沒收せられて和す。  
ニ、ポントス、アルメニアを略しぼんべいらすに破らる。

ローマの威振

1. 性格

けーざるは政治用兵法律數學に精しく辯舌建築に長ず。度量大にして膽力大なり。貧民黨の巨魁たり。

2. 第一三頭政治

一、ぼんべいらす…西方を鎮す。  
ニ、けーざる…ガリアを管す。  
三、くらッす…東方を定む、バルチアと戦ひて敗死す。

3. ガリアの經營

五八年ガリア征途に上りけるまほを斥けアリタニアを略す。ガリアを鎮撫し文化を扶植す。

イ、ぼんべいらす、けーざるの威名を思みけーざるを召還す。



三、けるの事業

四、兩雄の衝突

五、著名の功業

- 一、原因  
ハ、妻ゆりあを離婚す。
  - 二、争況  
けーざる兵を以てローマに侵入しほんべいらすを追ふ。  
ほんべいらすを追ひファルサルスに敗る。
  - 三、結果  
ほんべいらす、エジプトに自刃す。
  - 一、けーざる大にローマの都市を改築す。
  - 二、學藝商工を奨励す。
  - 三、曆法を改正す。
  - 四、ガリア戦争記を著はす。
  - 五、インペラトルとなりて天下を統治す。
- 元老院議員けーざるの威名を忌み(四四年)元老院にけーざるを刺す。

第二、三頭政の治

1. 三頭政の治成る

- 一、あんとにらす、けーざるの吊詞にて名を譽ぐ、東方を治む。
- 二、おくたびあぬす、けーざるの養嗣子 西方を鎮す。
- 三、おびづす 騎兵將軍 南方を管す。

おびづすはおくたびあぬすとシチリアの地に争ひ戦敗れて亡ぶ。

あんとにらすはエジプト女王くおおぼとらと婚しこれにローマ

の東部半分を與へんとすおくたびあぬすこれを怒りアクチウム

にあんとにらすの軍を破るあんとにらすエジプトに自刃す。

2. 天下一統

おくたびあぬす、エジプトを平げ天下を一統す。

1. 制度

おくたびあぬす 凱旋の後ちインペラトルとなりあらしむと稱す。諸制度を舊來の儘としあらしむすつす實權を握る。

2. あらうとすつす

- 一、帝政を創設す。
- 二、ローマ市を改築す。
- 三、大に美術文學を奨励す。

二四、ローマの帝政

3. 善帝良皇

- 一、ベすばしあぬす…フリタニアを平げユダヤを滅ぼす。
- 二、とらやぬす…ローマ版圖最大。
- 三、ありれりりす…(大秦王安敦)(ローマ文學の黄金時代)。

4. 帝國の衰運

軍人驕暴恣に廢立を行ひ綱紀紊る。

5. 帝國の分裂

- 一、ちおくれちあぬす帝位につき副帝を施す。
- 二、三二三年とんすたんちぬす大帝天下を一統せしが歿後帝國兩分す。
- 三、三九三年ておどしりす大帝また天下を一統せしが三九五年帝の歿後帝國は最後に東西に分裂せり。

1. 起ト教の源

キリスト教の開く。  
 いえずきりすととはユダヤの人なりヘブライの一神教より入りてキリスト教を開く。  
 ローマは人民を誘惑するものとして磔刑に處したり。  
 高弟アンチオキアに會しきりすとこの教を結集して布教につとめたり。

二五、さりと

2. 弘布の原因

- 一、キリスト教の世界的なりしこと。
- 二、在來の宗教は人心を満足せしむること能はざりしこと。
- 三、キリスト教徒の熱心は教に殉ずるを樂むに至らしめしこと。

3. の國教となる

とんすたんちぬす大帝即位の時大帝を助けて國教となる。  
 三二五年ニケーアに宗教大會議を催うしありりす派を排斥せり。  
 (詩人にはびるきりりす、ほらちりす出であらぐすつす時代文學の華を成せり。)

二六、ローマの文物

- 1. 文字
- 2. 學術
- 3. 美術

- 一、歴史にはけいざる、なきつすあり、ふるたるとすの傳記あり。
  - 二、法律は各種政體の變遷を経て大に發達せり。
  - 三、すといっく哲學大に流行せり。
- 建築は宏大なるを特色とす穹窿を用ふ(殿堂、劇場、浴場)。

第二篇

中古史

1. びるまに民族

ゴート フランク アルゴロニウ ランゴバルド アンゲルサクソン。

2. 大移轉の發端

三七五年匈奴族西侵してゴート族を襲ふ、ゴート族東ローマ帝に乞ひて難をドナウ河南に避く。

一、ゴートは東西ローマに寇す。

二、フランクはガリア北部に移る。

三、アルゴロニウはライン上流に移る。

四、パングロはイスパニアよりアフリカに移る。

一、蠻族の移轉

4. 西ローマの滅亡

四七六年ゲルマニ備兵の將おどわける西ローマ皇帝を廢し自立してイタリア王となる。

3. 種族の大移轉

一、東ゴート王國 四九三年東ゴート王アトリヒ、オドロケルを討ち代りてイタリア半島に東ゴート王國を建つ。

二、フランク王國 フランクの王アトリヒアルゴロニウ王國并に西ゴート王國の一部を略してフランク王國をガリアに建つ。

三、アングロサクソン王國 アングロサクソンはブリタニアを征服して七王國を建つ。

四、パングロ王國：アフリカの北部に王國をたつ。

5. ゲルマニ種族の王國

6. 匈奴

匈奴王アトリヒは西進してガリア地方に入りしがカタラウニウムの戦にフランクに破られて退き四五三年アチラの歿後大王國崩潰す。

一、即位：五二七帝ゆすちにあぬす帝即位。

(イ、ローマ大法典の編纂(五三三年))。

東ローマ  
二、とペルシ  
ア

1. ゆすち  
にあぬ  
す帝

一、内治  
ロ、ぬすとりのす派の異流を排斥す。

ハ、支那より蠶業を移植す、  
ニ、都城殿堂の築造。

イ、ペルシアを征す。

三、外征  
ロ、バルダル王国を併呑す。

ハ、東ゴート王国を滅ぼす。

2. ペルシ  
ア

一、建國…二二六年あるとするバルチア國を滅して建國す。

二、隆盛…ペルシアはほすろ一世及び二世の頃國勢頗る盛なり、

一、ゆすちにあぬす帝ペルシアと戦ひ永久平和を約す。

二、ほすろ一世東ローマを侵して國都を圍む皇帝へらくりおす之  
を撃退し反りてペルシアの國都に迫る兩國この戦に力衰ふ。

3. 兩者の  
衝突

三、サラケン  
帝國

1. 建國

回教の祖むはめつどはめつかに出て國教を排してイスラム教を唱へ諸  
方を征服してサラケン國を建つ(六二二年ヘジラ)。

2. 領土擴張  
の方針

むはめつどの繼承者はりふふは經典朝貢劍の格言を以て教域を弘  
む。

一、六三五年シリアをとる。

二、六三七年エルサレムをとる。

三、六四一年ペルシアを滅ぼす。

四、七〇〇年アフリカの北岸を兼併す。

五、七三二年フランクの相國からさるるに撃退せらる。

3. 帝國の  
膨脹

4. 帝國の  
分裂

一、バグダード領…七五五年あつばす家君臨すバグダードに都す。  
二、コルドバ領…七五六年あんまや朝君臨すコルドバに都す。

5. サラケ文化

- 一、商工業の發達：支那より大西洋に至る。
- 二、學問の發達：化學數學地理等大に進む（アラビヤ數字）。
- 三、建築：家屋と道路築造漸進む。

1. ギリシア帝國

東ローマ帝國はギリシアの言語習俗を採用せり。皇帝は依然管長（パートル）の保護者たり。

四、正教會の分裂

2. ローマ法の王の起源

ローマの大僧正は力を布教と社會救済とに致し衆民の信仰を得る。こと益盛に五九一年を紀てりお一世は法王の稱號をとれり。

3. 教會の分裂

七二六年ギリシア皇帝は偶像破毀の令を布く法王と紀てりお二世之に反對す。

1. かがり朝

かがり朝はフランスの相國及び人と結託して獨立を爲せり。王にランゴバルドの地を獻す、これかがり朝の初。

五、フランク國王

2. 大かろろ帝

- 一、即位
    - イ、蘭ゴバルド國を滅ぼし。
    - ロ、サラケンを討ち。
    - ハ、スラブを征し。
    - ニ、ノルマンを退く。
  - 二、外征
    - イ、蘭ゴバルド國を滅ぼし。
    - ロ、サラケンを討ち。
    - ハ、スラブを征し。
    - ニ、ノルマンを退く。
  - 三、内治
    - イ、封建の制を布く。
    - ロ、學校を興し。
    - ハ、法律を改正し。
    - ニ、産業を盛にす。
- 八〇〇年まじりと降誕の日ローマ法王紀お三世に西ローマ皇帝の金冠を加へらる。

3. フランク條約

- 一、大帝の長孫たるは帝號を稱し中部及びイタリアを領す。
- 二、るいす（ろた）の弟は東部を領す。
- 三、かろろ（るいすの弟）は西部を領す。

4. ドイツ、フ  
ランスの興  
起  
八八七年あるぬるふドイツ國をたつ。  
西部はおとーを立てしが九八七年ふーとーかペーフランス國を  
建つ。

1. ノルマン  
の起源  
ノルマンはびるまの一族にスカンヂナビアに住す第九世紀より  
南下す。

2. 西フラン  
ク侵入  
第九世紀西ふらんくの不統一に乗じて侵入す。  
九一一年王かるろは之に堪へずノルマンダーをその將に興へ公國  
とし他のノルマン人を防がしむ。

3. イギリス  
侵入  
一、でーん第九世紀より侵入す。  
二、かぬーと一〇一六年イギリスを併吞す。  
三、一〇六六年ノルマンダー公らいるぬむイギリス王となる(ノ  
ルマン征服)。

六、ノルマン

4. イタリ  
ア侵入  
地中海に入り南部イタリア及びシチリアを略しナポリ王國を建つ。

5. ロシア  
侵入  
八六二年ノルマン酋長るーりつくロシアに入りてノブゴロドに都しロ  
シアの起源を爲せり。

6. アメリ  
カ侵入  
九世紀末に至りイスラランドに殖民し。  
十世紀にはグリーンランド及びアメリカに殖民す。

1. ドイツ王  
の選舉  
ドイツにてはかろりんが王朝絶えたる後諸侯國王を選舉す。  
一、サキソニア公おとー一世王位につき。

2. おとー  
一世神  
聖ロー  
マ皇帝  
二、マシアル人スラブ人を征服す。  
三、イタリアを平定す。

四、九六二年ローマに行き皇帝の冠を受け神聖ローマ皇帝と稱す(九  
六二年)。

神聖ローマ皇帝と法王

3. 皇帝と法王の衝突

一、衝突の原因

イ、法王の名聲擧るに及び政教上法王の權勢を皇帝王の上にあらしめんとす。

ロ、一〇七三年法王グレゴリお七世法位に上り教會の改革を漸行し教師の妻帯を禁じ教師の皇帝の認可を受けまた皇帝の教正教師を任命するを禁じたり。

イ、皇帝ヘンリ四世はその不利益を認めて之に反對し法王を罷免せり。

二、大衝突

ロ、法王は皇帝を破門し破門せられたる皇帝に服従すべき義務なきを天下に令せり。

ハ、皇帝はカンッサに赴き法王に謝罪せり。

三、結果

皇帝の勢振はず教正は皇帝之を推薦し法王之を任命することに定む。

4. 黨争 5. 結果

一一三八年とらて三世の時よりびるふ、法王羅（さへりん）帝王黨との黨争衝突盛となり神聖ローマ帝の勢衰ふ。

フランクの相國からるまるてるがサラケンの侵入を禦が

一、起源 んとして王并に教會領を割きその從者に與へて強固なる團體を組織せりこれその淵源なり。

1 王侯教正がその領土を從者に與へて主從の關係を結ぶ。

2 貧者は豪族に投じ土地を得て主從の關係を結ぶ。

3 王侯豪族が私有地を強者に奉り更に封土として之を受けて主從の關係を結ぶ。

二、實質

1、主從の組織

### 1. 封建制

口、從者の關係

- 1 主君に従ひて戦役に赴く。
- 2 主君の長子の元服長女の嫁婚に資を献す。
- 3 主君捕へられたるとき之を償ふ。
- 4 軍資を献納す。

三、特色

イ、主は從に土地を授けて主従たるの誓約を爲すこと。  
大陸に於ては從者は主のみに對して義務を負ふも  
口、イギリスに於ては從は主及び主の主即ち王に對し  
ても従たるの義務を負ふ。

四、隆盛の時

かろろ大帝の時封建制度漸く普及す。  
第十世紀頃最も隆盛普及す。  
十字軍によりて封建制度の組織頑敗し。

五、衰亡

第十五世紀王權の伸張とともに廢滅す。

### ハ、中古西ヨーロッパの社會

### 2. 武士道

一、武士の教育

武士は幼時より王侯貴婦人につき禮節を習ひ武技を修め  
從士として戦役に從ひ嚴重なる式の後ち武士に列せらる。

二、武士の本領職務

イ、武士は神を敬し教會の爲めに盡力す。  
口、無告の窮民を救助す(裁判決闘)。  
ハ、武技を演じて士氣を鼓舞す。

三、興起衰滅の時

十字軍の時代に起り。  
第十五世紀に至りて衰滅す。

イ、功

- 1 婦女子位置を高む。
- 2 無告の窮民を救済す。
- 3 文學の材料となり(ローマンス)。

口、過

- 1 淫風を起す。
- 2 生活困難となり良民を虐ぐ。



3. 宗教諸社

- 一、ペネグくと社：第六世紀に起る戒律を守り産業教育布教に従事す
  - 二、ふらんす派
  - 三、どにほと派
- ともに布教并に宗教吟味に従事す。

4. 宗教の勢力

- 一、裁判上に決闘又は探湯を行ふ。
- 二、宗教裁判所を起す。
- 三、宗教吟味所を起す。
- 四、神和の休戦を宣言す。

5. 産業

- 一、農は壓抑を蒙り農民窮す。
- 二、工も領主の需要を充すに止まる。
- 三、商業は大に振ひ冒險奇利を博す財を献じて特權を得勢盛なり。
- 四、興起の因
  - イ、諸侯抑制の爲め帝王の保護を受く。
  - ロ、財を献じて特權を得土地を買ふ。

6. 自由都市

市府の聯合

- 一、イタリヤのランゴバルド聯合。
- 二、ドイツのハンザ組合。
- 三、ドイツのライン聯合。
- 四、スウイス聯合。

1. 原因

眞因

- 一、イ、サラケン人はキリスト教巡禮者を厚遇せるにトルコ人サラケン國に勢を得るに及び之を虐待せり。
- ロ、ギリシア皇帝トルコ人に侵され援を法王にもとむ、フランスの教師ペテロ東方の状況を視察し來りて聖地恢復を唱ふ。
- イ、法王ルネはのは教師をクレルモンに會して出征を議決す(一〇九六年)。

動機

- 一、フランスの諸侯出兵しイエルサレムを復して王國を建つ。

### 九十字軍

#### 2. 出征の状況

#### 3. 結果

第

二、イエルサレム王國危ふし、ドイツ帝フランス王役に赴く。

第

三、一八八八年エジプトのさうぢん、イエルサレム王國を滅ぼす。ドイツ、フランス、イギリスの帝王十字軍を起し僅にアッカを占領す。

第

四、法王いんのげんと三世の命により諸國の武士出征せしがギリシア帝國の内訌に干渉して目的を果さず。

第五以下

第五十字軍はイエルサレムを回復せしもその後らほらほむのためにはばさる。第六第七十字軍効なし。

一、功

イ、封建制度の衰頹。  
ロ、武士道の發達 宗教各社の發展。  
ハ、東洋より輸入せる結果として文化の進化。  
ニ、通商航海の進歩 市府の興廢。

#### 1. フランス王權の伸長

三、過...幾萬の生靈と財産との損失。

一、九八七年ふーとーかへー、フランスを一統す。

二、市府の力を借りて諸侯を抑ゆ。

三、ふいりほ二世はイギリス王じょあんよりフランスにあるイギリス領の過半を奪ふ。

四、るいす九世はアルピ地方の異教徒を征してその領土を奪ふ。

五、ふいりほ四世は法王ぼんさお八世を廢して法王を左右せり。

一、原因

イ、イギリスはへんり二世以來大にフランスに領土を増しけるにフランス王ふいりほ二世は王じょあんの關慮なるに乗じて多くその領地を奪ふ。

ロ、じょあんは教會領に課税して法王と争ひ遂に屈從せり。

ハ、諸侯并に教會の領を多く沒收し苛政を行ふ。

一〇、イギリスとフランス

2. イギリスの憲政開始

二、發布の始末

一二一五年國內の教正貴族等集會して大憲章の草案を作り王に強ひて之に署名し發布せしめたり。人民は法律上正式裁判によるにあらざれば捕縛處刑せらるゝことなく、またその財産を危ふくすることなし。

三、内容

四、國會開

一二六五年へ入り三世の時しもんどもんとるとは市民等の代議士を會して國會を開く。

一、原因

イギリス王とあると三世はフランス王より四世の男系絶たるに乘じ女系なれども最近親なるの故を以てフランス王侯を要求す、一三三九年開戦せり。

イ、和を結ぶ。

フランス王は五世は侵地を回復せしがアセムグートルに大敗して領土大半をイギリスに奪はる。

3. 百年戦争

二、戦況

左

二、東ヨーロッパ諸國

1. ロシア

輸入せり。

九八七年うちみる大公ギリシア皇妹を納れて切りにギリシア文化を輸入せり。

2. ポーランド

第十世紀頃よりドイツに侵入して勢盛なりしが第十二世紀頃より内訌によりて衰ふ。

3. ホンガリア

第十世紀頃より漸く盛なり。

4. ラテン帝國

第四十字軍の時建設せられコンスタンチノブルに都し第十三世紀の中頃に至る。

三、結果

ハ、少女じゅんを唱へフランス王カール七世をオルレアンの孤城に救ひフランス軍士氣振ひイギリス軍を驅逐せり。  
イ、イギリスは僅にカレドネル港を有するのみ。  
ロ、イギリスの勢衰へフランスの王權伸長す。  
ハ、愛國心を喚起し常備兵を設く。

三、モンゴルの西征

- 1. 成吉思汗の西征
  - 一、オノン河上に即位せる成吉思汗は西進してボラズムを滅ぼす。
  - 二、哲伯速不台を南ロシアに侵入せしむ。
- 2. 援都の西征
  - 一、成吉思汗の孫援都はロシアに侵入しモスクバを焼きキエフを屠る
  - 二、ポーランドを蹂躙しドイツに入りリリークニッツに戦ふ。
  - 三、大宗窩濶台の訃音に接して軍を旋へしサライに欽察汗國を建つ。
- 3. 旭烈兀の西征
  - 旭烈兀はベルシア地方を征服し一二五八年バグダードのハリファアを滅し伊蘭國を立つ。

一、興起

- 一、オスマンリトルコはカスビ海の東より小アジアに入りむらど一世の時ギリシア帝國を破りアドリアノブルに都す。
- 二、ぼぢーじつと二世は一三九六年ヨーロッパの聯合軍を破りて威を振ふ。

三、オスマンリトルコ

- 2. 帖木兒と争ふ
  - 一、ちむるぬんくはチンガタイ國に起り西アジアを定む。
  - 二、ギリシア皇帝の請に應じ大擧してトルコに入り一四〇二年ぼぢるじつととアンゴラに戦ひこれを擒にす。
- 3. ロシアの起る
  - 帖木兒の歿後モスクバ大公いはん三世はキプチャクを滅ぼす、ギリシアの皇女を娶る、いはん四世ツァールと稱す。
- 4. ギリシア帝國の滅ぶ
  - 帖木兒の歿後トルコまた勢を復しむはめつと二世に至リコンスタンチノブルを重圍し一四五三年五月遂にギリシア帝國を滅ぼす。
  - 一、スウイス人はあるて武器の發明と新案の戦法とにより巧に武士を無効力に終らしめたり。
  - 二、ヨーロッパ諸國はスウイス人を備ひて兵士を訓練し常備軍を組織せり。
  - 三、火器は戦争に使用せられ封建制度を破壊せり。
- 1. 戦術の發明
  - 一、
  - 二、
  - 三、

一四、發明

2. 活字の發明  
一四三六年じゅんぐてんべるひはマインツに於て木製活字の法を發明し大に人智の啓發に資せり。

3. 磁石應用の發明  
第十二世末に磁石の用法を發明しこれを航海に應用せり。

第十四世紀より學者は教權を疑ひ口典を研究し新思想の發揮に力め人道派學を成せり。

1. 復興の原因  
ギリシア帝國の滅亡とともに學者難を西方に避け大に優待せられたり。

一四三六年を以てんべるひの木製活字の發明。

一五、學術

2. 學者  
イタリアにては詩聖だんてを始めべとらるか、ぼつかちお出でドイツにはえらすむす、ろいひりん等の大家出でたり。

美術家にはみけろあんせろ(畫家彫刻家建築家)れおなるなると(畫家)

一三、美術

等出づ。

美術はギリシア、ローマの古風の折衷融和にして復活式といふ。

一、ぼるこ  
イタリア人ぼるとぼろ一二五五年より元朝に仕へ東洋紀行を著し東洋の富源を唱導して冒險的精神を喚起せり。

二、十字軍の結果  
十字軍の結果として地理上の智識著しく増加し貿易の隆盛を促がせしこと。

三、磁石の應用  
第十二世紀の末頃より磁石の應用を發明してこれを航海に利用せしこと。

四、航海の奨励  
ホルトガル王へんり大に航海を奨励せしこと。

五、トルコの勃興  
トルコ人東に興りて大に西ヨーロッパ諸國の貿易を東方の勃興に阻害せしこと。

二六、地理上の發明

2. 發見

一、航路

イ、一四八六年はるとろめおあず喜望峰を發見し。  
ロ、一四九八年はすとろめおあず喜望峰を迂回してインドに達せり。

二、アメリカの發見

イタリヤ人ころんぶすは世界の球形なるを信じイスパニア女王いさべらに説きその助力により西航して一四九二年新陸地を發見せり即ちアメリカの發見なり。

三、世界周航

一五一九年ホルトガルの航海者まがりえんすはイスパニア政府の命に従ひ西航してフィリピン群島に至り殺さる、一五二二年其部下世界一週の功を竣へたり。

3. 結果

- 一、ヨーロッパ文化の傳播。
- 二、商工業の勃興。
- 三、學術の發展。
- 四、殖民事業の擴張。

二七、西ヨーロッパの形勢

1. ドイツ

一、一三五六年黄金勅書によりカール四世は七大諸侯に選帝權及び領内の司法權を與へ帝權揚らず。  
 二、スイスの獨立を默認す。  
 三、あるべると二世ホンガリアを併す。  
 四、まきしめりあの一世永久平和の勅令を發し私闘を禁じ領土を擴大せり。

2. スウイ

スウイは歩兵を組織してよくドイツの武士をモルガルテン井にセンバハに破りて獨立を默認せしむるに至れり。

3. イギリス

一、イギリスは一二六五年議會を開き一三四一年上下兩院を置く。  
 二、ヘンリ七世皇室廳を設け租税を徵收し王權統治の基を開く。

4. フランス

一、ふりほ四世法王を左右して勢を振ふ。  
 二、百年戦争に戦敗れて勢一時衰へたり。

5. イスパ  
ニア

- 一、 三、 かのろろ八世はブルゴニヤを併せ勢漸く盛なり。
- 二、 イスパニアにはカスチリア女王のさむら勢盛なり。
- 三、 アラゴン王ふねるさなどと婚しイスパニアの基を開く。
- 四、 アラナダの回教徒を追ふ。
- 五、 アメリカを發見して勢最盛なり。

1. 宗教の必  
要

- 一、 十字軍の結果法王を疑ふに至りしこと。
- 二、 人道派學の發揮。
- 三、 第十四世紀の天變地妖は人心を憂懼せしめしこと。
- 四、 法王の失權教會の腐敗。
- 五、 イギリスのちんくりふ。
- 六、 ホヘミアのふす。

2. 改革の  
創說

- 一、 勅 機：法王とお十世ドイツに免罪符販賣を行ふ。

一八、 宗教改  
革論

3. ドイツ  
の宗教  
改革

二、 改革の  
進行

ウイテンベルヒ大學教授するてゐるの反對（一五二七年）  
イブチヒの公開論議。  
ウオルムス會議（一五二一年）。  
フランス王ふらんしす一世との戦。  
一五二九年スパイエルの國會にプロテスタントの樹立。  
一五三〇年のオーグスブルクの會議に新教を排斥す。  
皇帝トルコとフランスとの聯合軍を破る。  
シマルカルテン同盟を破る。  
一五五五年オーグスブルクの宗教協和に新教を許す。  
一五五六年皇帝かのろろ五世の讓位。

三、 皇帝の改  
革論の企  
圖

- 一、 スワイスにつらゐんをりん免罪符販賣に反對す。
- 二、 ツウネープにかるびん新教を唱ふ。

4. 其他の  
改革論

第三篇

近古史

一、イヌバポルの殖民

1. ガルトの殖民交通

- 一、一四八九年インドのカリコに達す。
  - 二、アフリカ沿岸に殖民地を置く。
  - 三、インドのゴアを根據地とす。
  - 四、廣東に至り澳門を永代借地す。
  - 五、日本に貿易布教す。
  - 六、ブラジルを占領す。
- 一、一四九二年にキウバに達す。
- 二、メキシコ(こゝろてす)ヘル(びざぬ)チレを占領す。
- 三、まがりあえんす、フィリッピン群島を占領す。
- 三、法王の宣言  
ローマ法王あれくさんどるは、西經三十二度の線を以て兩國殖民地の境界と定む。

2. イヌバポルの

4. 結果

- 一、ヨーロッパの文化を進む。
- 二、貿易の利益を收む。
- 三、宗教を布教して失敗す。

1. 改革論の旺盛

- 一、ドイツに新教の勢盛なり。
- 二、スウイスについんなりんの新教行はる。
- 三、ツウネーアにかるびんの新教行はる。
- 四、スカンヂナビア新教とふる。
- 五、イギリス王へんり八世國教を獨立す。

二、宗教改革の反動

2. イエスイタの教社組織

一五四〇年より等イエスイタ教社を組織す。

3. トリエント會議

一五四五年トリエント會議を開き聖書及び宗教會議の決議を以て信仰大に異流撲滅を圖る。



4. 宗教吟味：かららふの建議に基きローマに高等宗教吟味所を置く。

5. イスバニア：イスバニア王ふりほ二世舊教を代表して新教徒を討す。

1. 原因  
一、イスバニア王ふりほ二世が新教を撲滅して舊教たらしめんとしたること。  
二、ノーデルランド諸市の自治を奪ひたること。

一、貴族人民を誑願して止まず。

二、アルバ公バルマ公暴政を施す。

三、オランダ公らいるれむ義勇艦隊を組織してイスバニアの商船を掠む。

四、一五七九年エトロト同盟を結ぶ。

五、一五八一年獨立を宣言す。

六、一五八八年必勝艦隊にてイスバニア大敗。

三、オランダの獨立

2. 紛争の状況

イギリスの宗教紛議

3. 結果

1. 教會の分離

2. 新教

3. 舊教

4. 國教

1. 性質

一、一六〇九年イスバニア休戦を約して獨立を默認す。  
二、一六四八年ウエストフアリア條約により獨立を公認す。  
三、イギリス王へんり八世大に舊教の爲めに力を盡したること。  
四、へんり八世后かたりなを離婚せんとし法王に裁可を乞ひその容易く聽かれざるを怒りて一五三四年教權法王と分離す。  
五、えどわると六世は國教を新教とす。  
六、まりあ即位し夫ふりほ二世の勢力により舊教を國教と定む。  
七、えりざべた位に即き新にエヒスコバル教を制定し宗教の紛議を定む。  
八、沈毅豪邁自信を斷行し結婚を爲さざるに決す。  
九、エヒスコバル教を制定して宗教の紛議を平ぐ。  
一〇、ふりほの結婚要求を拒絶す。  
一一、國教を保持して舊教に反對す。

五、ヘンリとカタリサベ女王

3. 必勝艦隊

一、原因

ハ、政敵スコットランド女王マリアがイギリスに來りてヘンリと氣脈を通じ大逆を行はんとするを怒りこれを殺す。

ニ、オランダの獨立を援助す。

ホ、艦船を派遣して大西洋にイスパニアの商船を掠む。

イ、ヘンリは二世必勝艦隊を編成して神聖軍と稱す一五八八年イギリスを討つ。

ロ、イギリス提督はわいどこれをカレール港に破る。

ハ、イスパニアの殘艦北海に難破す。

三、結果…イスパニアの海軍力竭きアメリカの輸入を絶ち國勢衰ふ。

4. 東洋經畫…東インド商社を建てインド及び極東貿易を開く。

5. 文學…シェークスピア等の文學者著はる。

6. 科學…ペーコンの論理學一世の學風を表示す。

1. 王權衰ふ…ふらんしす二世かろろ九世幼冲を以て即位し太后かたり政を攝す。

2. 新教起る…一五六二年攝政太后新教を公許せり。

新教徒はイギリス、ドイツの新徒の援を得。

3. 第一回の紛争…舊教はイスパニアの援を得て争ふ。

遂に新教を公許せり。

王女まるとつたとナバラ王ヘンリと結婚の祝日に於て兩教徒衝突し

4. バルトロメオの虐殺…一五七二年バルトロメオ祭日には舊教徒勅許を得て新教徒を虐殺せり。

一、原因

ヘンリ三世嗣子なし王位をナバラ王ヘンリに禪らんとす。ふいりほ二世はまるとつと公と結びて王位を得んとす。

王まるとつと公を殺して新教徒に遷る。

六、フランスの政教の争

4. バルトロメオの虐殺…一五七二年バルトロメオ祭日には舊教徒勅許を得て新教徒を虐殺せり。

5. 第三回の紛争

二、争況

イエスイタ教社員殺さる。  
ナバラ王へんり王位に即きへんり四世と稱す。  
へんり四世ふいりば二世の兵を逐ひ出す。

三、結果

へんり四世舊教に改宗して人心を定む。  
一五九八年ナント勅令を發布し新教の自由を許す。

一、宗教上

一、一五五五年オークスブルクの宗教媾和後皇帝と  
るふ二世は舊教に傾きければ新舊兩教徒は黨を結  
びて相對峙す。

ロ、フランス王へんり四世新教同盟を援助せんとする  
を聞きイスパニアと同盟せり。

イ、ドイツは新舊兩派分立して國內統一せず故を以て  
其利権は外に侵さるゝに至りしかば帝國を一匡し

一. 原因

二、政治上

一、てその利権を保護せんとす。

ロ、イスパニア同盟は國力平均に害ありといふこと。

三、近因

一六一八年皇帝まぢあすは從弟ふえるぢなんどをホ  
ミア王とす、ホヘミア人は舊教の王を戴くを欲せずス  
イスの選帝公を戴きて叛す。

一、ホヘミア問題

皇帝ふえるぢなんど二世はイスパニア及び舊教同盟の兵  
を以てホヘミアを討平す、更に新教徒を平ぐ。

イ、近因  
デンマルク王くりすちあん四世はイギリス、オ  
ランダの援助を得ドイツの新教徒を討つ。

二、デンマルクの干渉

ロ、戦況  
ホヘミアの豪族あれんすたのん兵を擧げ舊  
教同盟軍と力を協せてデンマルクの軍を破る。

ハ、ルーベック條約により和成る。

七、三十年戰役

2. 戰況

三、スウェーデンの干渉

イ、原因

スウェーデン王がスウェーデンに侵入し新教徒の霸王たらんことを期す。舊教同盟軍ライプツヒヒに敗る。

ロ、戰況

われんすたいんまたルツェンに戦ひて敗るスウェーデン王戦歿す。

ハ、結果

スウェーデン軍勢振はず。われんすたいん議にあひて罷められ殺さる。フランスの相リッリッスウェーデンを援けて領土を擴張せんことを期す。

四、フランスの干渉

イ、原因

一、一六四八年列國ウエストファリアに會す。  
イ、ドイツ帝國內に政教の自由を許す。

ロ、戰況

イ、一六四八年列國ウエストファリアに會す。  
イ、ドイツ帝國內に政教の自由を許す。

3. 結果

ロ、オランダ、スイスの獨立を公認す。

ハ、スウェーデンはポメラニアの一部を取る。

ニ、フランスはエルサスの一部を領す。

三、これによりてドイツの人口田園文化荒廢す。

四、問題の決せざるものはフランスとイスパニアの争にして一六五九年に至る。

1. へんり フランス王へんり四世ナント條例を公布して教争を絶ち。

2. 國會廢止 ありす十三世の時攝政太后より國會を廢止す。

3. リッリッ

一、貴族の權勢を殺ぐ。

二、高等法院を抑壓す。

三、スウェーデンを援助してドイツを討ち國光を發揚す。

ハ、フランスの王權伸長

4. まぎれん…ウエストフリア条約により領土を擴張す。  
 5. こるペー…保護貿易主義を唱へて富強を圖る。

1. 政策

るいす十四世萬機を親裁す、内閣を組織して保護政策を採り國の發展を期す。

一、原因

イスパニア王ふりほ四世歿するいす十四世女婚の故を以て遺産としてネーデルランドを要求す。

二、戦況

オランダ、イギリス、スウェーデンはイスパニアを助けて交戦す、フランス勝つ。

三、結果

アーヘン條約によりネーデルランドの數市を得。

一、原因

オランダがネーデルランド受領を妨碍したるを怒りるいす十四世はオランダを討つ。

二、戦況

ドイツ、イスパニアはオランダを援けて克たす。

三、結果

ナイメーヘン條約によりフランチヤコンテを得。

九、るいす十四世

4. ツファル相續

一、原因

フアルツ選帝公歿するいすは其の相續を要求す。

二、戦況

オランダ、イスパニア、イギリス、ドイツは四國同盟を結びてるいすと戦ふ。

三、結果

一六九七年フライスライク條約によりネーデルランドの數市を得。

一、原因

イスパニア王かろろ二世嗣子なしるいす十四世はその孫ふりほを立てんと論じその承認を経たり、ドイツ皇帝をばらばらと一世は第二子あるをを立てんと欲して之に反抗せり。

二、戦況

イギリス、オランダはドイツを援けて戦ふ、るいす大敗す。イギリスの海軍ツラルタルを占領す。イギリスの軍ネーデルランドに勝を得たり。

5. ニア王位問題

三、局面の變

皇帝ギョゼフ一世歿してカール六世に即位。イギリスの内閣交渉して平和論に傾く。

一七一三年ユトレヒトに翌年ラスタットに和約成る。

イ、列國はふりほ五世を承認す。

ロ、イギリスはイスパニアよりシブラルタル、ミノルカを得。

ハ、イギリスはフランスよりハドソン灣地方、ニッソー、ファウンドランドを得。

ニ、オーストリアはネーデルランドの大部ナボリ、ミラノを得。

フラン 一、フランス特色の華美優麗の風を成す。  
二、このころ、ルソー、伏見、ルソー等の文學者あり。

6. スの文化

三、ルソー、ヴォルテールの畫工を出す。

四、バロック風の建築發達す。

五、フランス語は外交の通語となる。

1. 王權神聖

イギリス女王エリザベタ歿してスコットランド王ジェームズ六世イギリス王となる。

王權神聖論を唱へて國會と衝突す。

2. 專制政治

カール一世國會を解散し專制政治を行ふ(一六二九年—一六四〇年)。

一、王はスコットランドの宗教を改めんとし暴動を招く。

二、王、軍事費を得んが爲め國會を開く。

三、王、兵を以て國會議員を捕縛せんとし能はず。

四、王、兵をヨークに集め國會黨と戦ひて敗れ禁錮せらる。

10. イギリスの第

3. 暴政の進行

一革命

4. 弑逆

インデペンデント黨を平げ國王を裁判して死刑を宣告し一六四九年遂に王を弑せり。

イ、くろんりえる統領となる。

ロ、熱心に秩序の恢復を圖る。

ハ、一六五一年航海條例を發布してイギリスの富強を圖る。

ニ、オランダ軍を破りてその商業漁業の利を奪ふ。

5. 共和政治

6. 王政復古…一六六〇年前王の子かろろ二世を迎へて王位に復せしむ。

1. 原因

一、かろろ二世復位の後ち審査命令(舊教徒の就官禁止)人身保護令を裁可公布せり。

二、ぢえーむす二世トリー黨の保護により即位す。

三、審査會を破りて舊教徒を就官せしめ人身保護令を破りて反對者を罰す。

二、イギリス名譽革命

2. 革命

ホイック黨トリー黨と連合してオランダの統領らいるをむ及びその妃まりあを迎ふじえーむす二世フランスに逃る。

王后權利宣言を承認しイギリスの自由確立す。

女王あんの時スコットランドを合併す。

はーとん、ろっくの學者出で。

ぼーぶ、あぢそんの文豪起る。

3. 結果

1. イスバニア

イスバニアはルソンにより東洋貿易を行ひ日本にも交通せしが。本國の勢衰へ且布教に熱心せしかば勢益々衰ふ。

オランダは一六〇二年東インド商社を建設してイスバニアの殖民地を侵すシアベのバタビアに總督府を置き支那及日本にも貿易せり。臺灣を占領し極東貿易の全權を收む。

一六〇〇年東インド商社起る、スラトを根據とす。

三、西ヨーロッパの諸國の殖民貿易

2. オランダ

近  
古  
史

3. イギリス

オランダ人と争ひ極東を辞してインド經營につとめマドラス、ボンベイ、ベンガルを略す。  
喜望峯殖民地を置く。

1. ロシア

ロシアハ一五五五年シベリア拓殖の端をひらく。  
一六一三年るーリツクの後裔みかえる、ろーまのふ家の始祖となり東方経路に一進歩を加ふ。  
オコツク海バイカル湖邊を拓き尼布楚に城く。

東北ヨ  
ロツ  
の形

勢

2. スウェーデン

一五二三年スウェーデンはデンマルクより獨立す。  
むすたふあどるふ王はポーランドを破り三十年戦争にドイツを蹂躪せしがウエストファリア條約によりドイツ北邊に土地を得て勢強し。

3. ポーランド

ポーランドは第十四世紀ぶらざららの統一に係る。  
一五七二年選帝侯國となる。  
國內統一に難く貴族跋扈して紛擾絶えず。

1. 經畫

…ペテろ大帝は英邁の資を以てロシアの富強を圖らんことを期す。

2. 準備

大帝は軍港を得んとし、トルコを討ちてアソフ海岸を得。  
大帝はオランダ、イギリス等を巡視して西洋の文化を學び歸りて之を厲行せり。

一、原因

スウェーデン王の幼冲歴政人心を失ふに乗じデンマルク、ポーランドと聯合してスウェーデンを討つ。

イ、かろろ十二世はデンマルク、ポーランドを征服し。

ロ、ロシアの兵を破る。

ハ、ペテろネバ河口の地を取り、フルトバに大勝を得。

ニ、かろろ十二世トルコに走り國に歸り戦ひ敗れて陣歿す。

三、結果…一七二一年ニスタフト條約によりバルト海東岸の地を得

一四、  
の勃興

3. 北  
ロツ  
の戦役

二、戦況

三、結果…一七二一年ニスタフト條約によりバルト海東岸の地を得

近  
古  
史



一五、ポロンドラ  
位相續  
問題

四、アシペリ  
ア開拓

ペテろ大帝清國と尼布楚條約を結び國境を定む。  
恰克圖に互市場を開く。  
シベリアを拓殖す。

一、源 因

ポーランド王ありなすと二世没す國人はすたにすららす王家を立てんとす フランス、イスパニア之を賛す。

ペテろ大帝はオーストリアと謀りありなすと三世を立てんとす。

一七三八年ウイーン條約により。

イ、ありなすと三世と確認す。

ロ、オーストリアはナポリ、シチリア及びエルバをイスパニアに譲り。

ハ、オーストリアはバルマ等の地をイスパニアより得

二、結 果

一六、プロシ  
アの強  
大

- 1. プロシ公
- 2. プロシの獨
- 3. プロシ王
- 4. 國勢強

プロシアの地はアラメンブルク選定公ポーランドより得たる處、選帝公ぶろしあ公と稱す。

ポーランドとスウェーデンとの戦にぶろしあ公はスウェーデンを援けポーランドをしてプロシアの獨立を承認せしめたり。

プロシア公ぶれりき三世イスパニア繼承の役にドイツ帝を援けて王號を稱す。

プロシア王ぶりてれきういるれむ一世勤儉尙武國力富強の基を開く。

一、源 因

オーストリア王かろろ六世嗣子なし女ありあてれきを立てんとし列國の承認を受くかろろ六世没するに及びプロシア王ぶれりき大王はレミアの地を得て女系の相繼を承認せんと稱し兵を擧ぐ。

一、イギリスはオーストリアを援く、フランスはプロシアを援く。

一七、オーストリアの相續の役

2. 戦況

一、マリア・テレーシア帝がもうあるべると帝位を望みておろろ七世と稱す、まゝりあてれざはホンガリアの力によりて國都を恢復す。

二、オーストリアはイギリス、ロシアと結びフランス、イスペインの兵と戦ふ。

3. 結果

一七四八年アーヘンに和議成る。

イ、サルマ等をイスパニア王子とふりほに與へイタリヤ王とす

ロ、各國はプロシアのシレミヤ領有及びオーストリアの相續を認す。

1. 原因

一、オーストリアはプロシアを嫉みプロシアまた之に備へ圓滑を缺く。

二、イギリス・フランスの民はニャーファウランドに於て漁業につき争を起し、ここに衝突の端を開く。

一八、七年の戦役

2. 兩派

イギリスはフランスがマンノフェルを奪はんことを恐れてプロシアに同盟す。

ロシア・フランスはオーストリアに敵す。

3. プロシアとオーストリア

一、ふれりき大王はドレスデン、ブラーグ等に敵の聯合軍を破る。

二、なるんすわいひ公の兵をミンテンに破る。

三、ふれりき大王はケネルスドルフに大敗す。

四、ロシア帝彼得三世同盟を去りプロシアに好意を表す。

4. イギリスとフランス

一、イギリスの海軍各處にフランス軍を苦む。

二、インド・アメリカ・アフリカにイギリス軍大勝を得。

5. 結果

一、一七六三年パリイ及びフェルツスアルケに和ス。

イ、プロシアのシレミア領有を確認す。

ロ、イギリスはカナダ等の地をフランスより得たり。

ニ、プロシアは益富強となり内政また整ひ一等國に入れり。

イギリスとフランス

1. アメリカに於て

一、イギリスの殖民地

イ、エリザベタの朝メーシニアに殖民す。

ロ、ある多一世の朝ニューイングランドを立つ。

ハ、ユトレヒト條約によりニューファウンドランド、ハドソン灣地方を得。

ニ、七年の戦にイギリスはカナダを占領しパリ條約に之を得たり。

イ、フランスはケベック、ニューファウンドランドに殖民す。

ロ、ある十四世の時ルイジアナを收む。

ハ、ユトレヒト條約によりニューファウンドランド地方をイギリスに譲れり。

ニ、七年の戦にカナダをイギリスに奪はれたり。

の殖民の地競争

2. インドに於て

一、イギリスの殖民地

イ、イギリス人はボンベイ、カルカッタを得。

ロ、イギリス人はフランスの將多うぶれいすに一時虐遇せらる。

ハ、イギリス人クライブはブラッシーに於てフランスの同盟軍を破りフランスの勢を挫けり。

イ、フランス人はボンササリーを根據とす。

ロ、オーストリア相續の亂の頃サウプレーはイギリス人を歴倒せしが。

ハ、七年の戦役に全くイギリス人に破られて勢を損ぜり。

ロシヤ女帝カたりヌ二世はポーランド王あらざるに三世の歿するに乘じてロシヤ王と圖リスタニスラウス家を立て新教及びギリシヤ教の

三〇、ポロンド第一分割

1. 原因

自由平等を要求せり。  
ポーランド人は之に反対しトルコの援によりて兵を擧ぐ。

2. 戦況

ロシアは兵を出してクリム半島を征服しギリシア人をして叛せしむ  
プロシア、オーストリアはかくてはロシアが強に失せんことを憂ひ  
七七年ロシアと計りてポーランドの一部を分領す。  
ロシアはトルコよりクリムを取る。

3. 分割

三、かたり雄の二世り

一、かたり雄二世はトルコを討ちてクリムを取り。  
プロシアオーストリアと謀りてポーランドの一部を領す。

二、トルコの北部を奪ふ。

三、アラスカ、アレンウト群島の探検拓殖を爲す。

四、インクツクに日本語學校を建て歸化漂民を以て教師に充つ。

三、アメリカ殖民地の獨立

1. 原因

イギリスは數度の大戦に財政困難なりしかば一七六五年じよる  
じ三世は印紙條例を制定してアメリカ殖民地に課税す。  
アメリカ人之を不當としニューヨークに會議しふるんくりんを  
遣はして廢止を運動せしむ。

イギリス政府は茶に課税す。

アメリカ人はファイラデルフィアに會しちしんとんを總督とし獨  
立を宣言せり。

一、フランスの將らふいよつとは私に殖民地に應接す。

二、フランス・イスパニアは公然殖民を援ふ。

三、ロシア帝かたり雄二世は武装海上中立同盟を結ぶ。

四、イギリスはオランダを討ちて武装海上中立同盟を解散す。

五、サラトガ等に於てイギリス軍大敗す。

2. 戦況

3. 獨立成る...一七八三年ベルサイユ條約により十三州の獨立公認せらる。

4. 合衆共和の憲法成る。一七八七年フィラデルフィアに會し共和の憲法を定め合衆共和國となる。大統領内閣を率ゐて行政を總ぶ(任期四年) 議會(上下兩院)立法を司る。

各州は全く自治に任ず。

1. 概況...一七八四年の君主專制、教會の横暴を打破せんといふ。

一、*ロンドン*、*ウィグ*等イギリスに出て理解力を主とし帝王神聖に反對す。

二、フランスにはほるてゐる、*ロンドン*、*ウィグ*等イギリスに出て現在の社會制度を改革打破せんとす。

三、*イェス*イタ教社員の放逐行はる。

四、*ロンドン*の解剖らほあじすの化學らぶらすの天文學ららんくりにの電氣等の自然科学の發達となる。

三、第十世紀の思潮

2. 表はれたる思想

第四篇 近世史

1. 原因

一、財政の困難...政府重税を課し官爵を賣る。

二、貴族の專權...貴族教師は土地過半を有して租税を免る。

三、アメリカの獨立...アメリカ殖民地の獨立を援助せるもの、その憲法の自由平等なるを羨む。

四、自由平等論...*ロンドン*、*ウィグ*等イギリスに出てゐるの破壞的文學がよく人心を煽動す。

五、國王の優柔...*ロンドン*、*ウィグ*等イギリスに出てゐる十六世温厚なれども決斷力なく屢改革を行ふを命ずれども貴族教師の反對にあひて中止し却て社會の困難を甚しからしむ。

一、フランス革命

2. 革命運動の緒

一、國民議會の成立

一七八九年王はあつけるの策を納れて國會をベルサイユに召集す。  
第三級者國民議會を開く。

二、暴動起る

王あつけるを翻く。  
暴民蜂起してメスチエの牢獄を破る。

一、國民議會の幽閉

國民議會は教師貴族の特權を廢し各州平等自治の制を定む。  
逃走せる王を執へて幽閉す。  
立法議會組織を決す。

3. 王政不振の轉覆

二、立法議會の王權停止

第一回オーストリアと  
の衝突  
王權停止せらる。  
フランス軍ネーデルラントを蹂躪す。

プロシア・オーストリア革命に干渉す。  
じろんど蘇王に迫りて開戦せしむ。

4. 共和政治

三、國民議會の遷徙

イ、一七九二年王政を廢し共和政治とす。  
ロ、一七九三年のいすを斷頭台上に弑す。

一、内治

イ、王后弑逆反對黨の虐殺。  
ロ、曆法の改正。  
ハ、一七九五年第三年憲法成る、理事政府を建つ。

二、外交

第一回大同盟  
第二回オーストリアとの衝突

イギリスの相ひつとはプロシア・オーストリア・イスパニア・オランダ諸國と第一回大同盟を組織す。

六十萬のフランスの壯丁は敵を逐ふ。  
フランス軍はラインの左岸を略してオランダを滅ぼす。  
プロシア・イスパニアは和を成せり。

5. 府理事政

第三回オーストリア衝突第一回イタリア

ロンバルディアを併(チサルピナ、ヘルベチア、リグリア共和国)。

二、エジプト遠征

なほれおんエジプトを侵略しぬるそんに破らる。陸軍はロシア、トルコ、イギリス同盟軍に破らる。

1. 源因

ポーランドは新憲法を定めて世襲立憲王國とし多数決の制をとれり。ロシア女帝かたりは二世ポーランド人を煽動して反せしむ。

2. 争況

ポーランドの將とこれしと奮戦して之を防ぎ戦敗る。

3. 第二分割

ポーランドの志士また兵を興ぐ。ロシア、プロシア、オーストリアの三國ポーランドを分割して之を亡ぼす。

4. 第三分割

ポーランドの志士また兵を興ぐ。ロシア、プロシア、オーストリアの三國ポーランドを分割して之を亡ぼす。

二、ポーランドの分割

1. 統領政

一、第二回大同盟

ピツとはロシア、トルコ、オーストリア、ナポリ、ポルトガル、ドイツ諸侯と、第二回大同盟を結ぶ

二、統領とな

なほれおん理事政府を轉覆し元老院立法議會を開く。

三、第四回オーストリア征討第一回イタリア戦闘

イ、なほれおんはもろーとともにオーストリアを征す。

四、武装中立

ロ、一八〇〇年アルプを越ゆ、マレコンの戦、ポーハ、リッウホビル和約によりライン左岸をとる。

五、一般平和

イ、なほれおん北ヨーロッパと武装中立同盟を結ぶ。

二、なほれおん

ロ、あるそんはデンマルク海軍を破りてこれを解散す。

三、帝位に即く

ハ、一八〇四年なほれおん一世帝位に即くイタリア王冠を戴く。

四、帝位に即く

ロ、一八〇二年アミアン和約成る。

五、帝位に即く

イ、一八〇四年なほれおん一世帝位に即くイタリア王冠を戴く。

2. 帝政の第一期

三、なほれお

二、第三回大盟

イギリスはオーストリア、スウェーデン、ロシア、ナポリーと第三回大同盟を結ぶ。

三、トラファルガーの海戦

イ、なほれおんイスパニアと聯合してイギリス艦隊を誘致す。

四、第五回オーストリア征討

ロ、一八〇五年トラファルガルに於てぬるそんに破らるハ、フランス全く海上権を失ふ。

一、大陸合従の経緯

イ、なほれおん、ドイツ及びロシアの帝軍をアウステルリッツに破る。

二、大陸合従の経緯

ロ、ベネチアを得バリア、バーデンを獨立とす(ライン同盟)(神聖ローマ帝國の滅亡)。

三、なほれおん大陸同盟を經緯す。

イ、なほれおん大陸同盟を經緯す。

3. 帝政の第二期

二、プロシヤ征討

イ、プロシヤにハンノフェルを興へんと稱し凌辱を加ふ。  
ロ、なほれおんはプロシヤとロシアの連合軍を破る。  
ハ、ベルリン宣言 イギリスの宣言。  
ニ、チルシット條約によりワルシヤ公國を建つ。

三、ヒレネー半島征服

イ、なほれおんホルトガルを討ちて王を逐ふ。  
ロ、イスパニアを討ちてよせふを王とす。  
イ、オーストリア愛國心を喚起して立つ。

四、第六回オーストリア征討

ロ、なほれおん、ウァグラムに之を破る。  
ハ、ウィーン條約によりオーストリアの地を割く。

ニ、なほれおんはオーストリアの皇女まりあるいざと婚す。



4. 帝政の第三期

1. 開會

一、一八一四年九月列國ウィーンに會し一八一五年六月に至る。

討

一、ロシアは大陸同盟持續を欲せずしてイギリスと通ず。  
二、ロシアはなほれおんの再婚を憚ばず。  
三、なほれおん聯合諸國の軍を以てロシアを討つ。  
四、モスクワ陥る。火災、凍死。  
五、なほれおん微行逃れ歸る。

二、第四回大同盟。列國第四回大同盟を結ぶ。

三、なほれおん轉覆

一、なほれおん一八一三年ライプチヒに敗る。  
二、なほれおんエルバに流さる。  
三、るいす十八世即位。

四、ウィーン會議

2. 決議

- 一、プロシアはバルシアア公國サクソニアの一部ウエストフアリアを得
- 二、ドイツは三十九聯邦組織となる。
- 三、ロシアはポーランド王國を立つ。
- 四、イギリスは占領せる殖民地を得。
- 五、スウェーデンはノルウェーを合す。
- 六、オランダとネーデルラントは合併して王國となる。
- 七、スウイス、イスパニア、ポルトガル、サルダニア、ナポリ、法王領復活す。
- 八、なほれおんはウィーン會議の困難と扶持支拂なきを見私にエルバを逃れパリ

五、なほれおんの再興轉覆

- 一、なほれおんはウィーン會議の困難と扶持支拂なきを見私にエルバを逃れパリを占領し皇帝と稱す。
- 二、列國は兵を合せてウオーターローになほれおんを破る。
- 三、なほれおんをセントヘレナに流す。
- 四、るいす十八世を復位せしむ。

イギリスの殖民地擴張

- 1. 交戦に際し、フランスの殖民地を取る。オランダの殖民地を奪ひ。セーロン、ケープ殖民地を得。インド諸領主を服す。
- 2. イギリス人につく、オーストラリア、ニュージージーランドを採掘し後ち拓殖を爲す。北アメリカの西岸ベリリンガ海、ハワイを發見す。
- 1. 同盟の組織、パリ一陥落の後ちロシア帝ありきとる一世はオーストリア帝ありしと主ととも調印して同盟を組織せり。
- 2. 同盟の要領、キリスト教を奉し内治外交博愛主義によりて相援助す。

- 一、ドイツに於て、
  - イ、めつてゐるにひは保守専制主義を採り聯邦内の立憲主義を妨ぐ。
  - ロ、大學生一八一七年ワルトブルクに暴動す。
  - ハ、カルルスバード會議にてロシア、プロシア、相會し、監督檢閲を嚴にして暴動を豫防せんことを決す。

七、神聖同盟

3. 同盟の效果

- 一、イタリアに於て、
  - イ、めつてゐるにひはイタリア諸邦に説き専制保守を行はしむ。
  - ロ、かるほなり一黨蜂起す。
  - ハ、同盟國ベロナに會して叛亂を鎮定せり。
- 二、フランスに於て、
  - イ、フランスに於てゐるは十八世漸く同盟の勢に乗じて專制に傾けり。
  - ロ、立憲黨蜂起す。
  - ハ、ベロナ會議によりフランス出兵して之を定む。
- 三、イスパニアに於て、
  - イ、イスパニア王あるはなんど専制を立て貴族教師の特權を復す。
  - ロ、立憲黨蜂起す。
  - ハ、ベロナ會議によりフランス出兵して之を定む。
- 四、イスパニアに於て、
  - イ、じあるん六世復歸す専制黨フランスの援により憲法を廢しどんみんを王とす。

五、ポルトガル、ジョージアの援助によりて憲法を復す。

六、ジョージアの役後神聖同盟の援助によりみごとくまた専制を行ふ。

四、同盟の破綻……ギリシア独立の問題により列國意見を異にして破裂す。

1. 独立の援助  
イ、イギリスの外相カニンガム自由主義の政策を取り獨立運動を援助す  
ロ、アメリカ合衆國大統領モンロー主義を發表す。

2. プラジ  
プラジはポルトガル王ジョージアの歸國後太子ペドロを擁し一八二五年イギリスの援によりて獨立す。

3. 中部及南アメリカ  
一、パラグアイ、ウルグアイも獨立せり。  
二、さんまるちはチレを起し。  
三、メキシコも獨立せり。  
四、ほりばるはベネズエラを獨立せしむ。

八、諸國の獨立運動

一、原因  
ギリシアはキリスト教を奉じトルコに屬するを欲せず兵を擧ぐ。

イ、めつてゐるにはロシアの運動を妨げ之を撲滅せんとす。

ロ、エジプト藩王の子イブラヒムもギリシアを討つ。

ハ、ロシア帝はニコライ一世はカニンガムと議りフランスを誘ひ一八二七年ナポリノに於てエジプトの艦隊を破る。

四、ギリシアの獨立

二、紛争の状況

三、獨立承認す。  
一八二九年アドリアノブル條約によりギリシアの獨立を承認す。

一、一八二四年から十世立ち大に貴族教師を庇護し人民の自由を束縛す。

九、七月革命

1. 原因

一、ほりに多く内閣は王權神聖論を唱へ選舉法を改正し出版物を檢閲す。

2. 暴動

二、一八三〇年七月勅令を發布し未開の議會を解散す。

3. 結果

三、人民巴里に暴動す  
チエールはおるれあん公るいすふりほを迎へて王としめろろ十世イギリスに逃る。

1. 原因

一、おーてるらんと王國は南北民情國體を異にす。

2. 紛議の状況

二、オランダの國債を南部ネーデルラントに負擔せしむ。

3. 結果

三、七月革命フランスに起るに及びアルッセルに獨立を唱ふ。

一〇、ベルギーの獨立

一、イギリス、フランス、ロシア、オーストリア、プロシアの大使はロンドンに會しベルギーの獨立を議決せりされど境界論久しく踞れり。

三、ピレネ半島の政争

1. 原因

一、イギリス、フランスは立憲黨を援助しイスパニアにはいさむら、\*

二、ポロンドの叛亂

1. 原因

一、一八三九年に至り兩國ロンドン會議の決議に服す。

2. 紛議の状況

二、ポーランドは特別行政に甘せず秘密結社を起して王國恢復を企圖す。七月革命ベルギー問題起りロシア帝出師準備を爲すに當りてワルシヤに反す。

3. 結果

三、ポーランドの武器收められ全く自由を失ふ。

1. 原因

一、イスパニアの武器收められ全く自由を失ふ。

2. 紛議の状況

二、ポルトガペどろの女まりあ立憲黨に擁せられ。

3. 結果

三、ポルトガペどろの女まりあ立憲黨に擁せられ。

三、スウイの改革

- 1. 不平の因  
三十二州の聯邦中二三の首邦及び聯邦議會によりて組織の決せらるゝを以て貴族的とし不平等とし改革を唱ふ。
- 2. 紛議  
七月革命の勢焰に乗じて紛争を起す。
- 3. 結果  
三十二州の聯邦國家とし政權の平等を得。

（ルトガルにはまり多を立つ。）

四、イギリスの政治改革

- 1. とーりー黨の穀物條例  
イギリス財政經濟困難となるに及びとーりー黨内閣は穀物條例を發布して大地主の利益を圖れり。
- 2. 自由貿易のほいそごの  
かほんでは自由貿易を唱へ各國の任意政治を主張し。航海條例廢止と航海貿易の擴張を期せり。
- 3. とーりーの舊教有釋の  
一八二九年うゑりんとんは舊教徒有釋法を制定す。カール伯選舉法を改正す。
- 4. 改ほいそごの改革  
奴隷を廢止す。

（びーの發議により穀物條例を廢す。）

五、東方問題

- 1. 原因  
一、エジプトの藩王めへめとアリ酋功の報酬としてシリアを占領す。  
二、ロシア大軍を出してトルコを援はんとす。  
三、ヨーロッパ諸國はシリアをエジプトに與へて和せしむ。  
四、ロシア、トルコと防禦同盟を結ぶ。
- 2. 紛争の情況  
一八四〇年イギリスはロシア、フランス、オーストリア、プロシアとロンドン會議を開きイギリス、フランス、ロシア、プロシアの四國決議を以てエジプトの世襲權とシリアの終身所有權を以て甘んぜしめんとす。
- 3. 結果  
イギリスの軍艦エジプトを破りロンドン會議の決議に服従せしむ。

（イ、七月革命は人民の手に成るを以て人民は普通選舉と職工保護を得んとす。）

二月革命とその影響

1. 二月革命

一、原因

ロ、なほルおん一世の遺骸を迎へたるは政府反對熱を盛にす。

ハ、東方問題に政府の失策は威信を損す。

ニ、ギゾーは平和保守を執りて人民の要求を納れず。

イ、政府は一八四八年二月の革新宴會を禁止す。

ロ、暴動バリーに蜂起す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

二、紛争

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

イ、王は王大孫とともにイギリスに逃る。

ロ、共和政治を宣言す。

ハ、かべいむにあく暴民を鎮定す。

- 一、るいすなほルおんは地方の人士を説きて大統領となる。
- 二、一八五一年クーデタにより終身の大統領となる。
- 三、一八五二年フランスの帝位に即く。
- 一、トルコ帝フランスにべてれへむの教會管理權を認む。
- 二、東方に野心あるロシアまた之を要求しギリシア教徒保護權を得

一七、なほルおん三世の即位

2. 二月革命の影響

一、に於ける

三月騒動

（ボヘミア・ハンガリア蜂起す。

オーストリア・ロシアの援をかりて之を平ぐ。

ロ、プロシア：迫まられて憲法を發布す。

サルサニア立憲主義をとりてオーストリアの束縛を脱

に於ける

オーストリア之ヲ討平す。

- 一、るいすなほルおんは地方の人士を説きて大統領となる。
- 二、一八五一年クーデタにより終身の大統領となる。
- 三、一八五二年フランスの帝位に即く。
- 一、トルコ帝フランスにべてれへむの教會管理權を認む。
- 二、東方に野心あるロシアまた之を要求しギリシア教徒保護權を得

1. 原因

一んとす。

三、イギリス、フランスは之を妨げドナウの撤兵を要求せり(大病人)。

四、トルコはロシアの要求を納れずロシアまたイギリス・フランスの請求に應ぜず。

一、イギリス・フランスは一八五四年ロシアと開戦す。

二、兩國クロンスタットに迫まる効なし。

三、一八五五年サルヂニアの援を得てセバストポールを陥る。

一、一八五六年ロシア、イギリス、フランス、プロシア、オーストリア、サルヂニア等パリに會して和を結ぶ。

二、ロシアに兵備を撤してクリムを還附す。

三、トルコはキリスト教の平等権利を認む。

四、ロシアの黒海艦隊を制限す。

一八、クリム戦役

2. 戦況

3. 結果

一九、

ロシア、イギリス、フランス、プロシアの經營

1. ロシアの經營

(五) 中立條規を定む。

一、キルギスを蠶食す。

二、ヘルシアの北部を奪ふ。

三、アフガニスタンを窺ひイギリスと交戦す。

四、トルキスタンの北部及び中部を領す。

五、一八五八年愛理條約により清國より黒龍江左岸を得。

六、一八六〇年烏蘇里江東の地を得。

一、イギリスはロシアに對してヘラットを助け。

二、ブンジャブを得。

三、鴉片問題により一八四〇年清國より香港を得。

四、バルマを滅ぼす。

五、インドの内亂を平げ一八七七年インドを直轄とす。

六、アロー號事件により清國と戦ひ北京條約により數港を開かしむ。

2. イギリスの經營

3. フランスの經營

安南に迫りキリスト教徒殘害せられたりと稱しサイゴン地方を略し交趾支那を併有す。

1. 原因

サルヂニア王びくとりおえまぬえろ一世はその相かぶーるとイタリヤの統一と自由とを得んことを企圖す。

一、近因

一八五九年サルヂニアはイギリス・フランスの同情を得て國境を固む。

オーストリアはサルヂニア軍備中止を命じて遂に開戦す。

2. 第一期ニ、戰況

なほれおん三世サルヂニアを助けてマゲンタ及びソルフェリーノにオーストリア軍を破る。

イ、なほれおん三世はオーストリアと會し。

ロンバルヂアを受けてこれにてサルヂニアに興ふべく

イタリ

二〇、アの統

三、結果

法王の許にイタリヤ同盟を作ることとを約す。

ツリーヒ條約により三國の和成りサルヂニアはロムバルヂアを得。

3. 第二期

一、イタリヤ小邦は陸繼としてサルヂニア合併す。

二、サルヂニアはなほれおんにニース、サボアを譲りてこれを承認せしむ。

三、かりばるちは義勇兵を以てシチリア、ナポリを陥れサルヂニアに都す。

四、一八六一年びくとりおえまぬえろイタリヤ王と稱しフィレンツェに都す。

4. 第三期

5. 第四期

プロシアとオーストリアの戦にプロシアと同盟してベネチアを得。

6. 第五期

プロシアとフランスとの戦に法王領を奪ひローマに都す。



### 三、南 争北

#### 1. 原因

一、合衆國漸く進歩しルイッアナ、フロリダ、テキサス、上カリフォルニアを併せ領土益大となる。

二、合衆國の北部は奴隷廢止を唱へ南部は必要を論ず。

三、カリフォルニア金礦の發見は南部の發達を促して奴隷廢止を危からしむ。

四、一八六〇年多ぶらはむりんかいん奴隷廢止を以て大統領となる南部十一州は之に従はずアメリカ聯邦を組織せり。

一、南軍一時ウォシントンに迫る。

2. 戦況  
二、ぐらんと南部を攻撃し南部諸港を封鎖す。

三、一八六三年りんかいん奴隷を開放す。

3. 亂平ぐ...一八六五年リチャモンド陥リアメリカ聯邦解散す。

#### 1. 原因

メキシコは外債償却を怠る。  
なほれおん三世はイギリス、イスパニアと連合して之を詰責す。

一、イギリス、イスパニア兩國はメキシコの説明に満足す。

2. 紛争の  
三、なほれおんのみ兵を以てメキシコを陥れオーストリアの皇弟をさしめりあのを立ててメキシコ皇帝とす。

三、メキシコ一般に従はず合衆國モンロー主義を主張す。

三、メキシコ一般に従はず合衆國モンロー主義を主張す。

3. 結果...フランス兵を引く。

1. 統一企  
一、神聖同盟破綻の頃プロシアは關稅同盟により統一を計らんとす。  
二月騒動の頃ドイツの志士はラングフォルトにドイツ議會を開き憲法を定め中央政府を立てて統一を畫せしが制裁力に乏しくて失敗せり。

### 三、メキシ コ問題

一、  
シウ  
ウイ  
ヒロス  
題第  
一期

一八四八年デンマルク王クリスチ安八世歿し  
ふれでり送七世立つ。  
シウレスウイヒ、ホルスタイン二國はデンマルク  
より分離を欲す。

ハ、プロシア兵を出してデンマルクを討つ。  
一八五二年北方諸國 ロンドンに會し二公國の權  
利を認めデンマルクに譲りクリスチ安を相繼  
者と決定す。

イ、クリスチ安九世立つシウレスウイヒをデンマル  
クに合併す。

ロ、プロシア、オーストリアはデンマルクを討ち二公國  
及びラウエンブルクを占領す。

二、  
シウ  
ウイ  
ヒロス  
題第  
二期

三、

ドイツ  
統一  
プロ  
シア  
と  
オ  
ース  
ト  
リア  
の  
役

2. 源  
因

三、  
シウ  
ウイ  
ヒロス  
題第  
三期

ハ、  
ウィーン條約によりプロシア、オーストリアは三  
州を得。

イ、  
ひすまるとは三州を得んことを欲す。

ロ、  
オーストリアは三州をアウグステンブルク公に  
與へんとす。

ハ、  
ラウエンブルクをプロシアに買ひ二州を分領す  
るに決す。

イ、  
二州は分離管轄せらるゝを欲せず。

ロ、  
ひすまるとはこれを以てオーストリアの教唆に  
よるものとす。

ハ、  
オーストリアこれをフランクフォルトの聯邦  
會に提出す。

四、  
シウ  
ウイ  
ヒロス  
題第  
四期

3. 戦況

4. 結果

一、プロシヤはイタリアと攻守同盟を結ぶ。  
二、プロシヤ王はびすまろく、もるとげとともに三年を率ゐる連戦の後オーストリアの軍をサドバに破る。  
三、イタリア軍北進せり。

一八六七年プロシヤとオーストリアはプラークに和約を結ぶ。  
プロシヤは二州を受けハンノフェル、サキソニアを併せ。  
オーストリアを聯邦より排斥す。  
イタリアとオーストリアはウィーンに會し。  
イタリアはベネチアを得。

二、

プロシヤとフランスとの戦役

1. 原因

2. 情況

一、なほれおん三世はオランダ王らるるれおん三世よりルクセンブルクを購買せんとしびすまろくに妨げられたること。  
二、なほれおん三世はプロシヤ、オーストリアの戦役に幹旋したる報酬としてライン地方を得んとしてびすまろくに峻拒せられたること。  
三、イスパニア女王いさべらフランスに逃れ援を乞へるに際しなほれおんはイスパニア國會の推舉せるれおんほるとの即位に反對しプロシヤ王に禁制の保證を得んとして拒まれたること。  
一、なほれおん戦を宣す。  
二、なほれおん列國の援助を得る能はず。  
三、フランスの將軍はせーぬはメッツに圍まる。  
四、なほれおんセダンに隣となる。

3. 結果

1. 原因

一五、メツツ、ストラスブルグ、パリに陥る。

一八七一年びすまるくとちえーるはベルサイユに會し和を結ぶ。

一、媾和

イ、エルサスロートリンゲンをプロシアに讓る。

ロ、五十億フランの償金を約す。

プロシア王ドイツ帝國を建設す。

イタリヤは法王領を得半島を統一す。

フランスは一八七五年共和國となるまゝまほん大統領となる。

ロシアは黒海艦隊の制限を放棄す。

ロシアはヘルゼゴビナが重款に堪へずして叛せるを見トルコに對して内政改革を勸告す。

二、列國の影響

三、トルコはブルガリアの叛徒を虐殺す。

三、ロシアはキリスト教徒保護を名として戦を宣せり。

一、ロシアの將はとら大公アドトアノフに迫る。

二、ロシアの別軍アルメニアに入る。

三、ギリシアはマケドニアを略す。

一、イギリスは斡旋してサンステファノ條約を結ばしむ。

二、イギリスはサンステファノ條約を承認せず。

一八七八年ベルリンに列國會議を開く。

イ、トルコはブルガリアの屬國とし東ルーマニアを自治せしむ。

ロ、トルコはセルビア、モンテネグロの獨立を認む。

ハ、トルコは國內の信教自由を公認す。

二、ロシアはカルスとパツームを得。

二五、トルコとロシアとの戦役

2. 情況

3. 結果

西洋諸國の經營

1. イギリス

- ホ、オーストリアはボスニアヘルゼゴビナを得。
- ヘ、ギリシアはテッサリアを得。
- ト、イギリスはキプロスを得。
- 一、一八六九年フランス人租借ぶはスエズ運河を開く。
- ロ、イギリス人運河の株券を買収す。
- ハ、エジプトの騒亂に乗じて財政を管理す。
- ニ、ケープ：イギリスはオランダよりケープ植民地を得。
- イ、南アメリカに採金業起るに及びイギリス人は上院被選權を要求す。
- 南アメリカ共和國はオランダ共和國の援を得イギリスと戦ふ。
- ハ、一九〇二年イギリスは南アフリカ共和國を討平せり。

南アフリカ共和國

西洋諸國の經營

2. フランス

1. イギリス

2. 合衆國

- 一、フランスはチロニアを保護とす。
- ニ、一八九五年マダガスカルを保護國とす。
- イギリスはオーストラリアに殖民し一九〇一年には自治憲法を許す。
- ニ、イギリスはホルネオの一部を領す。
- 三、ロシアとアフガニスタンに争ふ。
- 一、一八九七年ハワイを合併す。
- イ、キウバ島民イスパニアに叛く合衆國はイスパニアに行政の改革を勸む。
- ロ、一九九八年サンチアゴの海戦フィリッピン群島領有
- ハ、パリに條約を結ぶ。
- 合衆國はフィリッピン群島及びポルトリチを得。
- キウバの獨立を承認す。

合衆國とイスパニア戦役

一、キウバ島民イスパニアに叛く合衆國はイスパニアに行政の改革を勸む。

ロ、一九九八年サンチアゴの海戦フィリッピン群島領有

ハ、パリに條約を結ぶ。

合衆國はフィリッピン群島及びポルトリチを得。

キウバの獨立を承認す。

3. フランス……フランスは一八八五年アナンを保護國とす。

一、ロシアはアフガニスタンにイギリスと争ふ。

二、伊犁問題にホルゴース河西を得。

三、ウラザホストク建設。

四、柯太を得。

一、寫實的なり。

二、フランス人ゆゑと。

三、イギリス人てはそん、ぢげんす。

四、ドイツ人びて。

一、ドイツ人らんげ、もんせん。

二、イギリス人ふりーまん。

一、ドイツ人かんと、ふひて、へーびる、しよ、ふんはちん。

二、イギリス人すべんき。

3. 哲 學

2. 史 學

1. 文 學

4. ロシ ア

二六、十九世紀文明

4. 科 學

一、ドイツ人まりえるの勢力不減説。

二、イギリス人だーういんの進化論。

一、顯微鏡、望遠鏡、寫眞術。

二、ふるとの汽船。

三、すちーふんそんの汽車。

四、せんめりんぐ及びがらすの電信。

五、電話電燈電車無線電信。

六、砲火軍艦。

6. 萬國平和の傾向

一、一八八三年三國同盟成り一八九五年二國聯合成る。

二、一八九九年ヘーグの萬國平和會議、仲裁々判所。

7. 社會の情況

一、社會黨、共財黨、虐無黨。

二、博愛慈善の事業、各種の同盟、赤十字社。

1. 西洋諸國支那に對する利益の因

一八九四年日本と清國と馬關會商するに及びロシアは清國の哀訴により之に干渉せんことを欲せり、會二國聯合成るに及びドイツ之に發しフランスまた之に同じ三國聯合し日本に交渉して遼東を還附せしむ

2. 利益獲得

- 一、ドイツは清國に迫りて膠洲灣を借用す。
- 二、ロシアは旅順大連の租借滿洲鐵道敷設權を得。
- 三、フランスは雲南鐵道敷設廣州灣租借權を得。
- 四、イギリスは威海衛を借用せり。

利益獲得

- 一、源因：拳匪起り興清滅洋を唱へ政府の接を得て殺民を殺す。
- 二、戰況：日本兵主力となり列國軍とともに天津北京を陥る。
- 三、戰況：ロシア軍滿洲を占領す。

二元、日本の位置

3. 得の結 果 北清事 變

三、結果

清國全權慶親王李鴻章は列國使臣と北京に會議す。  
イ、元兇の處罰。  
ロ、ドイツ及び日本に謝罪使派遣。  
ハ、償金四億五千萬兩の支拂。

四、日本とイギリスとの同盟

一、源因 二、條約

ロシアが滿洲を撤兵せずまた韓國に勢力を振ふは東平韓和と領土保全に害あるを以て之に備ふるにあり。  
兩國協同して東洋平和と清韓領土保全を圖ること。  
同盟國の一が戰ふ時は中立を守ること若し敵國が二ヶ國以上なる時は他は直に戰ふこと。

一、源因 二、條約

イ、ロシアが滿洲を撤兵せざること。

ロ、韓國の北境を危うすること。

刷行

明治三十三年十一月二十日  
明治三十三年十一月廿五日

西洋史

明治三十三年十一月十日  
明治三十三年十一月十五日  
明治三十三年十一月十八日

(定價五十錢)

著者

六盟編輯所纂

複製

不許

發行所

合資社會六盟館

東京市日本橋區鐵砲町三番地

代表者杉本七丸

東京市日本橋區崎町二丁目廿五番地

印刷者遠藤益吉

大販賣所

七	書	黒	目	東京市日本橋區崎町二丁目
吉	友	原	榑	東京市日本橋區區區町
丸	百	七	本	東京市日本橋區石本町二丁目
耶	十	黒	目	新潟縣長岡市表町四丁目
耶	太	喜	澤	長野縣野島市津波町

發行所

東京市日本橋區鐵砲町三番地

合資社會六盟館

電話二七六四

印刷所東京市日本橋區崎町二丁目六六番

5. 日本とロシアとの戦役

三、結果

二、戦況

九連城、得利寺、沙河、遼陽、奉天に大捷を得。旅順港外、日本海に大捷を得。旅順口を陥る。

ハ、日本がロシアと平和の協商を爲すも、ロシアは遼遼して誠意なきこと。

アメリカ合衆國大統領は一九〇五年兩者の間に幹旋しパーセン小村ポーツマスニ會商す。

1. 日本は遼東及び柯太南半を得。

2. 韓國を保護す。

3. 長春以南の市清鐵道を受く。

ロ、イギリスは西藏と條約を結ぶ。

ハ、日英同盟を擴張す。



普通學表

定價金十五錢  
郵稅金三錢

實業學表

倫理學	教育學	幾何學	英文學	國文學	日本地理學	東洋史年表	日本史年表	生理衛生學	動物學	礦物學
心理學	立體幾何學	算術	算術	國文學	日本地理學	日本史年表	日本史年表	物理學	植物學	化學
心算	授法	代數	代數	漢文	地理學	西洋史年表	東洋史年表	植物學	動物學	礦物學
論理學	三角學	三角學	三角學	代數	代數	代數	代數	代數	代數	代數

商業通論  
農學通論  
肥料學  
養畜學  
其他逐次發行  
一册定價金拾八錢

實用植物學表解  
實用動物學表解  
家政學表解  
郵稅貳錢宛

東京市日本橋區砲町三番地

發行所 六合館



202264-000-3

特 5 4 - 9 5 1

增訂西洋史

六盟館編輯所 / 編

M39. 11

EDC-0132

